

自:2020年4月1日
至:2021年3月31日



NCAJ
National Camping Association of Japan

事業報告書 2020



「223ウォーキング」 の一コマ

公益社団法人 日本キャンプ協会

目 次

2020年度事業総括	1
ビジョン2020検証と進化	2
キャンプの活動を発展させ、広めていく事業（公益目的事業1）	3
1. キャンプに関連する情報の発信及び相談業務	
2. 静岡県立朝霧野外活動センターの運営（自然体験活動実践の場の提供）	
3. 地域の関係団体との連携	
4. 他団体と共同で行う事業	
5. 国内外の情報収集と提供	
6. 都道府県キャンプ協会の事業支援 ～ビジョン2020の推進と検証～	
7. 「キャンプ安全の日」全国一斉キャンペーンの実施	
8. 都道府県キャンプ協会に対するキャンプ用品・用具の配備	
よりよいキャンプを実現する指導者養成の事業（公益目的事業2）	15
1. 公認指導者養成	
2. キャンプ指導者の審査・認定	
3. 指導者養成のためのテキスト発行	
4. 課程認定団体向け研修会	
5. 都道府県キャンプ協会指導者研修会	
6. 課程認定団体の増強への取り組み	
7. 指導者養成制度改訂に向けた検討	
8. 教員免許状更新講習の実施	
キャンプの質の向上につながる研修及び調査研究の事業（公益目的事業3）	20
1. 第24回日本キャンプミーティングの開催	
2. 定期刊行物『キャンプ研究』	
3. 安全に関する啓発活動	
法人事務	23
1. 諸会議の開催	
2. 都道府県キャンプ協会との連携	
3. Monthly Report	
4. 日常法人業務	
5. 各種団体への協力・共催・後援	
CAMPING AWARD 2020 受賞者	26
公益社団法人日本キャンプ協会 2020・2021年度 役員	30
公益社団法人日本キャンプ協会 2020・2021年度 運営委員	31
日本キャンプ協会事務局職員・静岡県立朝霧野外活動センター職員	33

2020 年度事業総括

2020 年度の日本キャンプ協会は、新型コロナウイルスの感染拡大に翻弄された 1 年になりました。計画していた行事や事業は、そのほとんどが変更を余儀なくされて、中止または延期という状態に陥りました。しかし、そうした厳しい状況の中においても、様々な新しいチャレンジが行われ「キャンプを止めない！」取り組みを、積極的に展開することができた年となりました。

<ビジョン 2020 の推進に関する取り組み>

最終年を迎えたビジョン 2020 は、多くの協会の活動として定着してきましたが、新型コロナウイルス感染の影響により、多くのアクションプランは目標を達成することができませんでした。しかしながら、一部の協会の中では、独自に感染対策ガイドラインを策定し、指導者養成、キャンプ事業、協会の自主的な運営を積極的に展開したところもありました。また、ビジョン推進委員会では、ビジョン 2020 の総括を行い、新しいビジョンの策定を決定し、2022 年度以降の計画の立案と準備を進めています。

<キャンプの活動を発展させ、広めていく事業（公益目的事業 1）>

公益目的事業 1 では、コロナ禍の対策として、「新型コロナウイルス影響下における青少年教育に関わる 5 団体による共同声明」「サマーキャンプ運営ガイドライン」を関係団体と策定・公開し、キャンプ事業の継続のために協力を行いました。また、文部科学省委託事業「子供たちの心身の健全な発達のための子供の自然体験活動推進事業」に応募し、全国 16 団体と連携して、各団体のキャンプや自然体験活動のサポートを行いました。指定管理施設である朝霧野外活動センターでは、県からの団体受入れ停止要請もあり、団体利用数が大きく落ち込む中で、感染対策を徹底し、日帰り利用やスケート場の利用を積極的に PR し、多くの利用者を集めることができました。

<よりよいキャンプを実現する指導者養成の事業（公益目的事業 2）>

公益目的事業 2 では、協会の基幹事業である指導者養成が、コロナ禍の影響を一番大きく受ける結果となり、さらに新規養成者数が減少しました。しかしその一方で、これまでには無かった、オンライン講習の導入が進み、参加者が増えた講習会もあり、今後の指導者養成講習会のあり方に可能性を見出すことができました。教員免許状更新講習は、全国 13 会場で実施予定でしたが、全国に緊急事態宣言が発出されたため対面での開催が困難になりましたが、急遽、オンデマンド講習に切り替えて、講習を中止することなく、実施することができました。

<キャンプの質の向上につながる研修及び調査研究の事業（公益目的事業 3）>

公益目的事業 3 では、コロナ禍におけるキャンプ事業の可能性を探求し、情報発信に努めた 1 年となりました。第 24 回日本キャンプミーティングは、急遽、オンライン大会に変更を行い、コロナ禍のキャンプの調査、情報収集、情報交換の機会を 4 回シリーズで開催しました。夏のキャンプの実態調査の結果については、実行委員会が中心となって編集し、Web サイトや『キャンプ研究』第 24 巻に掲載し、今後のキャンプ活動の参考情報として広く公開することができました。

<法人事務>

法人事務では、厳しい協会運営が続く中、事業 3 か年戦略の 2 年目の計画を確実に実行した 1 年となりました。各事業の運営方法や支出の見直しを徹底し、運営の効率化をはかりながら、健全な財務管理に努めました。また、協会全体の適正な運営のために、執行理事会を毎月開催に変更し、役員と職員の協働による迅速な意思決定に努めました。結果的には、コロナ禍による事業形態の変更も重なり、全体の収支バランスを取ることができました。

ビジョン 2020 の検証と進化

最終年度を迎えたビジョン 2020 は、ビジョン推進委員会が中心となって、各アクションプランの目標の達成度について検証を行い、その総括をふまえて、新しい使命ビジョン 2025 のロードマップを策定しました。

1. 「キャンプの案内人(ガイド)」の養成

「キャンプの案内人(ガイド)」の養成を目指すアクションプラン①では、新型コロナウイルスの感染拡大により、「キャンプ指導者養成」「教員免許状更新講習」「キャンプマイスター」のいずれの計画も十分に目標を達成することはできませんでした。特に、キャンプインストラクターの養成では、授業や実習ができなくなった大学・専門学校での養成数が大きく落ち込み、全体で前年比 253 人減の結果となりました。その一方で、キャンプディレクターの養成においては、キャンプディレクター 1 級養成講習会を初のオンライン講習会として開催し、前年度と同じ 30 人を認定することができました。「キャンプマイスター」の取り組みは、全国に十分に浸透するまでには至りませんでした。キャンプに対する世の中の関心は、依然高いものがあります。今後の可能性が期待できるところです。

2. 「つながる力」「たのしむ力」「たちむかう力」を実感できるキャンププランの提案

様々なキャンプの力を実感できるキャンププランを提案するアクションプラン②については、新型コロナウイルスの影響により、予定していたキャンプの多くが中止に追い込まれました。しかし、こうした困難な時代だからこそ、子どもたちにキャンプや自然体験活動を届けようと企画された、文部科学省委託事業に全国から 14 の都道府県キャンプ協会 2 つの一般課程認定団体から応募があり、コロナ禍であっても、キャンプの力を実感できる機会を継続することができました。

3. 社会の変化に対応して意識改革に取り組む

社会の変化に対応して意識改革に取り組むアクションプラン③では、多くの都道府県協会において、会員数の減少に歯止めがかからない中、会費収入だけに頼らない、県協会独自の会員制度の導入、新規の事業開発、補助金や助成金の獲得など、新しいチャレンジの動きが出てきました。キャンプブームの中、指導者資格までは必要ないが、ソロキャンプ、女子キャンプ、ファミリーキャンプ、焚き火などをやってみたいという人に対し、キャンプスキルやキャンプ入門講座を開催した協会は増加しました。

また、茨城県キャンプ協会では、地元の企業と連携して、地元の特産品であるお酒の販売に協力して、その売り上げの一部を県内のキャンプ場に寄付として還元してもらう制度を開発しました。

協会の自主、自立は永遠のテーマですが、これからも各協会が持続可能な団体となるために、新しいチャレンジを続けることが求められます。



茨城県キャンプ協会公認のお酒
「CAMPING PLUS」

キャンプの活動を発展させ、広めていく事業（公益目的事業1）

キャンプの活動を発展させ、広めていく事業では、キャンプブームやコロナ禍の中で、キャンプに対する多くの問い合わせが寄せられて、キャンプがもつ様々なチカラを世の中に発信し、キャンプの素晴らしさを伝えることに尽力しました。

1. キャンプに関連する情報の発信及び相談業務

会報誌「CAMPING」の発行、Web サイト、SNS、メールマガジンなどを活用し、常に最新のキャンプ情報の収集と発信に努めた。キャンプインフォメーションセンターは、指導者派遣、テレビ番組や新聞紙の取材、テレビコマーシャルの監修など、様々なニーズに丁寧な対応を行った。

(1) 会報誌「CAMPING」の発行

今年度の会報誌「CAMPING」は、「ビジョン2020」の全国各地での取り組みの報告と、四季それぞれのキャンプの楽しみ方をテーマに特集を行い、年4回発行した。

発行部数：各号 約11,000部

No	発行日	特 集
192	4月15日	ビジョン2020の取り組み
193	7月15日	夏の楽しみ方
194	10月15日	秋の楽しみ方
195	1月15日	冬の楽しみ方



会報誌 CAMPING

(2) Web サイト及び公式 Facebook ページの運用

新しくリニューアルした Web サイトや SNS を活用して、国内外の最新のキャンプ情報を積極的に発信した。特に、新型コロナウイルスの感染拡大により、感染予防対策の専用ページを設置し、キャンプ活動の支援を行った。

Web サイトアクセス数：約 98,000 人

Web サイト：<https://camping.or.jp>

Facebook ページ：<https://www.facebook.com/ncaj.sns>

Facebook リーチ数：約 57,600 人、エンゲージメント数：約 7,000 人

(3) メールマガジンの配信

日本キャンプ協会の情報提供サービスの一環として、会員とキャンプやアウトドアに関心のある一般の方に向けて、メールマガジン「CAMPING News」を定期的に発信した。

発行回数：毎月最終金曜日発信

購読者累計数：約 13,000 人、月平均：約 1,100 人

(4) キャンプインフォメーションセンター

キャンプインフォメーションセンターでは、マスコミ、民間企業、非営利団体、行政機関、市民から寄せられる問い合わせや取材、相談などに積極的に対応を行った。特に、コロナ禍でキャンプの関心が高まり、取材や協力要請が増えた1年であった。

<主な問い合わせ>

内容	クライアント	依頼内容
取材/出演	フジテレビ「とくダネ！」	キャンパーの迷惑行為についてコメント出演
取材/出演	TBSテレビ「クイズ! THE 違和感」	キャンプ場面でのクイズ監修
取材/出演	NHK NEWS WEB	焚き火の注意点についてコメント出演
指導者派遣	イベント会社	住宅展示場でのキャンプ教室
指導者派遣	ニューマーケティング協会	協会例会の講演
指導者派遣	テレビCM制作会社	日清チキンラーメンCM制作の助言、指導
指導者派遣	仙台市大倉ふるさとセンター	女子キャンプ入門講座の指導
指導者派遣	カルチャーセンター	キャンプ入門講座の開講
企画/助言	伊藤忠アーバンコミュニティ	指定管理施設応募の助言
企画/助言	国分グループ本社 (K&K)	キャンプ飯用の新缶詰の紹介
企画/助言	大日本印刷	ショッピングモールでのキャンプ入門講座
調査/監修/執筆	横浜税関調査統計課	テント輸入量増加への監修
調査/監修/執筆	日本小児科学会	キャンプ中の一酸化炭素中毒事故についての意見交換

対応件数：93件

内 訳：取材/出演 (37件)、指導者派遣 (27件)、企画/助言 (17件)、調査/監修/執筆 (6件)、その他/相談 (6件)

2. 静岡県立朝霧野外活動センターの運営（自然体験活動実践の場の提供）

静岡県教育委員会社会教育課が所管する施設である静岡県立朝霧野外活動センターを、県内の野外教育関係団体と協働し、日本キャンプ協会グループとして運営を行った。2020年度は、2007年度から継続している指定管理の第4期（5年間）最初の年だったが、新型コロナウイルス感染症拡大により、年度当初の施設一時閉所や、利用団体の大量キャンセル等非常に大きな影響を受けながらの施設運営を余儀なくされた一年だった。年間の利用者数は例年の4割ほどまで落ち込んだものの、これまでの経験と実績を活かし、静岡県内外の様々な社会教育団体及び学校団体が実施する活動を支援し、野外活動の拠点施設として、また、日本キャンプ協会のキャンプの実践の場として、子供を対象とした組織キャンプ、家族等を対象とした野外活動体験及び野外教育指導者養成等、様々な人々を対象とした活動及び自主事業を実施し、キャンプ並びに自然体験活動の機会を提供し続けるよう努めた。

（1）自然体験活動事業（自主事業）の実施

計画する主催事業それぞれについて、キャンプ及び自然体験活動の普及のために、新型コロナウイルス感染症の防止対策をとりながら、できる限り計画通りの内容で実施するよう努めた。

「朝霧高原サマーキャンプ～つながろう富士山～」が静岡県教育委員会の判断により中止になったほか、「朝霧マウンテンオリエンテーリング」も、全国を対象とした事業の募集時期が緊急事態宣言の期間と重なり、応募の見通しが立たないため中止とした。その他の事業は、全て事前申し込み制に変更したり、参加できる人数・地域を制限したりして、新型コロナウイルス感染症の拡大状況に合わせ柔軟な対応をとりつつ、ほぼ計画通り実施することができた。

青少年自然体験事業 <主催事業>

事業名	日 程	対 象	参加者数
朝霧高原サマーキャンプ ～つながろう富士山～	7月5日 8月6日～14日	小学5年生から中学 3年生	中止

野外教育指導者養成事業

事業名	日 程	対 象	参加者数
野外活動プログラム実習	4月17日、4月18日 4月30日	利用団体の担当者 及び指導者	17人
	8月20日、21日		9人
	11月13日、14日		11人
長期キャンプ 指導者養成講習会	6月15日～16日(中止) 7月11日～12日 8月8日～16日 10月17日～18日	専門学校生 短大生 大学生	10人
野外活動指導者養成講習会	2021年 2月13日～15日	野外教育に興味のある人、青少年団体の指導者、教育関係者	8人

県民自然体験事業

事業名	日程	対象	参加者数
ちよっといい春感じませんか	4月25日	家族・小グループ	32人
	4月26日		3人
ナビゲーションスポーツ・キャンプ in 朝霧 ・朝霧マウンテンオリエンテーリング (中止) ・はじめてのナビゲーションゲーム	— 9月5日～6日	家族・小グループ	中止 103人
ステキな秋をあなたに	10月3日～4日	家族・小グループ	144人
オリエンテーリング in 朝霧	11月21日～22日	家族・小グループ	301人
スケートキャンプ	11月6日～7日	家族・小グループ	29人
	12月4日～5日		46人
	1月8日～9日		23人
	1月15日～16日		45人
	2月12日、13日		54人
	3月12日～13日		51人
223(ふじさん)ウォーキング	2月20日	家族・小グループ	137人
プラネタリウムと星空探訪	3月5日～6日	家族・小グループ	51人
スケートフェスティバル in あさぎり	11月3日	家族・小グループ	99人
	3月7日		147人

施設開放事業

事業名	日程	対象	参加者数
プラネタリウム一般開放	原則毎月第3日曜日 春休み・冬休み期間	家族・小グループ	計22日 803人
スケート一般開放	原則毎月第3日曜日 春休み・冬休み期間	家族・小グループ	計28日 3,891人
富士山の日にあさぎりで遊ぼう	2月23日	家族・小グループ	150人
朝霧カーニバル ※人数制限を設け実施	11月1日	どなたでも	958人
あさぎりっ子スケートクラブ	11月～3月の 水曜日又は木曜日	センター周辺の小学校(5校)に通う児童とその家族	計19日 384人

社会問題に対応した事業

事業名	日程	対象	参加者数
朝霧高原ホッとキャンプ ※日程を短縮して実施	2月12日～14日	不登校児童・生徒 引きこもりがちな青年	5人
	3月5日～7日		5人

自然環境保全に配慮する事業

事業名	日程	対象
走れば山が美くなる	通年 事業開催時	事業参加者(オリエンテーリング in 朝霧、223ウォーキング等)



スケートキャンプ



プラネタリウムと星空探訪

(2) 受け入れ事業の支援

朝霧野外活動センターを利用した社会教育団体及び学校団体 274 団体に対し、実地踏査や事前の利用打ち合わせも含めて、それぞれの団体の利用目的や団体の状況に合わせたきめ細かい支援を実施した。各活動の運営方法、計画の立て方、実地踏査の行い方、安全管理と危機管理の方法、実際のプログラム運営の支援及び施設を利用する上で必要な感染症防止対策等、研修の実施にあたり必要となる事柄について、個別に対応し、利用団体の実施する研修活動がより効果的なものとなるようにサポートした。

利用者数の推移(施設全体)

年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
2018	2,566	5,359	8,386	12,021	9,157	9,099	6,886	5,912	3,383	3,037	2,312	5,890	74,008
2019	2,581	3,040	3,375	11,780	10,769	8,935	5,579	11,197	4,377	2,781	2,142	1,654	68,210
2020	49	0	600	1,276	2,119	4,391	5,580	5,594	4,698	2,278	2,518	2,765	31,868
前年度比	-2,532	-3,040	-2,775	-10,504	-8,650	-4,544	1	-5,603	321	-503	376	1,111	-36,342

<本館棟>

年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
2018	2,458	3,951	6,047	6,865	5,181	4,785	5,182	5,659	2,952	2,724	2,085	5,147	53,036
2019	2,456	2,321	2,754	6,911	5,341	5,508	4,536	9,473	3,942	2,591	2,011	1,406	49,250
2020	49	0	446	628	581	3,151	3,883	5,138	4,238	2,214	2,416	2,404	25,148
前年度比	-2,407	-2,321	-2,308	-6,283	-4,760	-2,357	-653	-4,335	296	-377	405	998	-24,102

<キャンプ場>

年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
2018	108	1,408	2,339	5,156	3,976	4,314	1,704	253	431	313	227	743	20,972
2019	125	719	621	4,869	5,428	3,427	1,043	1,724	435	190	131	248	18,960
2020	0	0	154	648	1,538	1,240	1,697	456	460	64	102	361	6,720
前年度比	-125	-719	-467	-4,221	-3,890	-2,187	654	-1,268	25	-126	-29	113	-12,240

利用団体数の推移(施設全体)

年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
2018	18	41	59	90	80	63	41	57	70	59	51	74	703
2019	22	27	32	87	84	59	30	49	58	57	48	41	594
2020	5	0	13	23	43	43	42	48	63	51	47	57	435
前年度比	-17	-27	-19	-64	-41	-16	12	-1	5	-6	-1	16	-159

<本館棟>

年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
2018	12	24	38	53	40	33	26	51	58	51	44	62	492
2019	17	16	21	51	43	38	20	42	49	51	44	37	429
2020	5	0	7	10	10	28	24	42	53	46	43	50	318
前年度比	-12	-16	-14	-41	-33	-10	4	0	4	-5	-1	13	-111

<キャンプ場>

年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
2018	6	17	21	37	40	30	15	6	12	8	7	12	211
2019	5	11	11	36	41	21	10	7	9	6	4	4	165
2020	0	0	6	13	33	15	18	6	10	5	4	7	117
前年度比	-5	-11	-5	-23	-8	-6	8	-1	1	-1	0	3	-48

(3) プログラム開発

協働事業として、遠藤知里氏(静岡県キャンプ協会理事・常葉大学短期大学部保育科准教授)に実施していただいている幼児キャンプ「とことこキャンプ」を、「とことこキャンプ実行委員会」の主催事業として8月(3泊4日)、9月及び10月(各1泊2日)の計3回開催した。夏休みに4日間と日程がやや長いキャンプを実施したところ、大きな反響があり、静岡県内では実施例が少ない、新たな自然体験活動の機会を提供することができた。また、短期大学及び大学の保育課程で学ぶ学生を対象としたトレーニングキャンプを新たに開催し、幼児キャンプと並行してキャンプスタッフを養成する取り組みを開始した。



机をはこぶ



いきものをさがしに

「とことこキャンプ」

(4) 地域との協働

- ・新型コロナウイルス感染症拡大により、高齢者が多く居住する周辺地域からの要請で、地域振興等の各種取り組みへの参加を控えることになった。
- ・緊急事態宣言の発出に伴い、静岡県教育委員会の指示で5月の1か月間、施設が臨時閉所となったが、その間、6月の業務再開に向けた臨時地域懇談会を実施した。また、11月には地域の住民や周辺施設の職員などを招き、例年どおりの地域懇談会を開催し、センターの運営状況を説明するとともに、センターの運営に関する意見や提言を募り、運営に生かした。
- ・国立中央青少年交流の家が推進する「静岡子ども体験フェスティバル」の開催に協力して、朝霧野外活動センターを会場にして、朝霧カーニバルと同日開催した。この事業は、地域住民、地域の施設、県内の青少年教育施設及び社会教育団体等の参加を得て、朝霧高原地域のイベントとして実施した。なお、新型コロナウイルス感染症対策として参加者を1,000人未満に抑え、事前申し込み制とした。



地域懇談会



朝霧カーニバル（国立中央青少年交流の家）

(5) 感染症対策

新型コロナウイルス感染症の拡大を受け、静岡県教育委員会及び静岡県立の青少年教育施設4施設が共同で、「県立青少年教育施設における基本感染防止対策」を6月3日付で取りまとめた。これを基にして、「朝霧野外活動センター感染防止対策」を6月12日付で取りまとめ、これらの感染症対策マニュアルを朝霧野外活動センターのホームページ上で公開した。



「長期キャンプ指導者養成講習会」



「初めてのナビゲーションスポーツ」

(6) 外部評価委員会

2020年5月13日(水)に、2020年度の施設運営方針について、外部評価委員会の視察に代えVTR撮影を行った。2020年6月24日(水)に、静岡県庁で2019年度の運営に関する外部評価委員会の評価結果についての伝達式が行われた。2021年4月23日(金)に、外部評価委員会の視察が行われ、2020年度の施設運営について指定管理者から報告した。2020年度の運営に対する評価伝達式は、2021年6月25日(金)に伝達される予定である。

3. 地域の関係団体との連携

青少年教育、社会教育、NPO法人、野外教育、行政機関などの各団体と連携をはかるため、担当委員として協力を行った。

団体名	役職	担当
青少年教育5団体連絡協議会	委員	依田 智義
中央青少年団体連絡協議会世話人会	委員	依田 智義
体験の風をおこそう運動推進委員会	代表委員	平田 裕一
	委員	依田 智義
特定非営利活動法人自然体験活動推進協議会	理事	依田 智義
公益財団法人ハーモニセンター	監事	依田 智義

4. 他団体と共同で行う事業

コロナ禍の緊急対応として、ガールスカウト日本連盟、ボーイスカウト日本連盟、東京YWCA、日本YMCA同盟と協働して、「新型コロナウイルス影響下における青少年教育に関わる5団体による共同声明」を6月に策定してWeb公開し、広く社会に警鐘を行った。なお、恒例の「出会いと体験の森へ」は、新型コロナウイルス感染拡大のため見送りとなった。



「新型コロナウイルス影響下における青少年教育に関わる5団体による共同声明」(6月)

5. 国内外の情報収集と提供

新型コロナウイルスによるパンデミックは、世界中のキャンプ事業に大きな影響を及ぼしたが、その一方で、国際キャンプ連盟（ICF）やアメリカキャンプ協会（ACA）をはじめとした、海外のキャンプ関係団体と日本キャンプ協会のネットワークを強く結びつける結果となった。

（1）国外情報の提供

新型コロナウイルスの感染が世界中で広がる中、アメリカキャンプ協会は、「サマーキャンプ運営ガイドライン」を5月にWeb公開した。ガイドライン日本語版作成のために、日本YMCA同盟と共同翻訳を行い、タスクチームの監修により6月にWeb公開した。国内のキャンプ関係者に、海外のキャンプの感染対策の情報を紹介することができた。なお、予定されていた国際大会は全て延期となった。また、新たな取り組みとしては、ICF ニュースレターをWebサイトに掲載し、海外のキャンプ情報の紹介を定期的に行った。

- ・「ACA 2020年サマーキャンプ運営ガイドライン」日本語版の公開（6月）
- ・「ICF ニュースレター」の紹介（11月、1月、3月）
- ・オンラインイベントの紹介（3月）

（2）国内情報の海外発信

8月に、コロナ禍の中でも、キャンプの素晴らしさを世界中に発信するためのキャンペーン『#ThankstoCAMP』に、国際キャンプ連盟から参加の呼びかけがあり、WebサイトやSNSで紹介を行い、多くの人々がキャンプに対するメッセージを日本から世界に発信することができた。また、ICFと各国をつなぐICFアンバサダーに登録を行い、アンバサダー会議に職員と理事が出席して国内情報の紹介を行った。

- ・『#ThankstoCAMP』キャンペーンへの参加（8月）
- ・ICFアンバサダー登録、オンライン会議、イベントへの参加（1月・3月）

6. 都道府県キャンプ協会の事業支援 ～ビジョン2020の推進と検証～

全国の都道府県キャンプ協会で行う予定だった各事業は、コロナ禍の影響により、大きな変更を余儀なくされたが、事業を可能な限り止めないために、積極的に支援を行った。また、ビジョン推進委員会では、ビジョン2020の検証を行い、総括として新しいビジョンの方向性を定めた。

・キャンプ指導者養成講習会の支援と協働

新型コロナウイルスの感染拡大をうけて、指導者養成委員会は、「コロナ禍における指導者養成の指針」を公表し、講習会の継続実施のために支援を行った。

・会報同封サービスの提供

都道府県協会の会報誌やチラシなどをCAMPINGに同封して所属会員に案内する、会報同封サービスを提供した。また、1月に賛助会員に入会された（株）K&Kクリエイションズ様からキャンプギアの会員割引の提供があり、チラシを全会員に配布することができた。

利用した都道府県協会・団体数 15協会 延べ発送点数 10,190点

・デジタル化推進への協力

各都道府県協会にメールアドレスと Web サーバーの提供を行い、社会的な信用の担保とインターネットを利用した情報発信&収集を行えるよう支援した。また、リモート会議やオンライン講習会のサポートとして、7月から Zoom システムの貸出しを行った。

Zoom システムを利用した協会数 8 協会 利用回数 11 件

・ブロック会議の開催

新型コロナウイルスの感染拡大を受けて、集合形式のブロック会議の開催が困難になったため、初のオンライン形式の会議を実施した。主管協会（幹事県）と地域連携委員が協力して会の準備と進行が行われ、日本協会からも役員と事務局職員が同席し、各協会の近況、ビジョン 2020 の評価、ブロック内の連携などについて協議した。

ブロック	日程	主管協会	出席者数
全ブロック	10月25日(日)	日本協会	65人
北海道・東北ブロック	2021年1月31日(日)	北海道	17人
関東ブロック	12月6日(日)	東京都	19人
中部・北陸ブロック	12月19日(土)	三重県	17人
近畿ブロック	12月9日(水)	兵庫県	20人
中国・四国ブロック	2021年2月13日(土)	山口県	16人
九州・沖縄ブロック	2021年2月27日(土)	福岡県	19人

・合同ミーティングの開催

9月に、新型コロナウイルスの感染の影響を受けて、都道府県キャンプ協会と日本協会の今後の連携について協議するために、ブロック理事、地域連携委員、執行理事会メンバーによる、初めての合同ミーティングを開催した。コロナ禍における、各キャンプ協会の運営などについて意見交換を行うことができた。

会議	日程	内容	出席者数
合同ミーティング	9月9日(水)	都道府県協会の現状報告 ブロック内連携の強化など	21人

・文部科学省委託事業「子供たちの心身の健全な発達のための子供の自然体験活動推進事業」

新型コロナウイルスの感染拡大をうけて、文部科学省が公募した委託事業に、全国から14都道府県協会と2団体の応募があり、日本協会事務局が取りまとめを担い、事業を止めず、全国の子供たちにキャンプや自然体験活動の機会を届けることができた。

No	団体名	参加者数(人)		合計
		日帰り	宿泊	
1	奈良県キャンプ協会	0	278	278
2	滋賀県キャンプ協会	53	0	53
3	静岡県キャンプ協会	110	0	110
4	大阪府キャンプ協会	30	0	30
5	島根県キャンプ協会	0	26	26
6	大分県キャンプ協会	42	57	99
7	沖縄県キャンプ協会	34	0	34
8	埼玉県キャンプ協会	40	0	40
9	長崎県キャンプ協会	10	0	10
10	一般社団法人宮城県キャンプ協会	0	21	21
11	NPO 法人東京都キャンプ協会	0	51	51
12	NPO 法人ガイア自然学校	87	0	87
13	NPO 法人青少年体験活動研究所(おにし青少年野外活動センター)	0	206	206
14	兵庫県キャンプ協会	107	30	137
15	福井県キャンプ協会	0	52	52
16	NPO 法人自然体験共学センター	0	211	211
17	ノーム環境教育事務所	0	39	39
18	福井市自然体験交流推進協議会	35	38	73
19	NPO 法人エコプランふくい	0	116	116
20	一般社団法人環境文化研究所	0	52	52
21	一般社団法人 SwitchSwitch	0	243	243
22	一般社団法人若狭路活性化研究所	40	11	51
23	にじいろずっく	0	75	75
24	NPO 法人中池見ねっと	0	25	25
25	栃木県キャンプ協会			中止
26	NPO 法人森林楽校森んこ			中止
	合計	588	1,531	2,119

7. 「キャンプ安全の日」全国一斉キャンペーンの実施

キャンプを安全に楽しんでもらうために、毎年7月の第3日曜日を「キャンプ安全の日」と定め、夏休み期間に、全国各地で安全啓発キャンペーンを展開した。また、新型コロナウイルスの感染防止対策としてWebサイトに専用ページを開設し、キャンペーン中も注意喚起を行った。

- ・ キャンペーン期間：2020年7月1日(水)～8月31日(月)
- ・ キャンプ安全の日：2020年7月19日(日)
- ・ キャンペーンチラシの配布、「安全なキャンプのために」などの小冊子の提供による広報活動（Webサイト、Facebook、報道機関）の全国展開
- ・ 都道府県キャンプ協会での安全啓発活動
- ・ 「新型コロナウイルスに関する情報」の専用Webサイトの開設

8. 都道府県キャンプ協会に対するキャンプ用品・用具の配備

安全で楽しいキャンプを行うために、一般財団法人日本宝くじ協会からの助成金を受けて、希望する全国の都道府県キャンプ協会にテントの配布を行った。これらのテントは、都道府県キャンプ協会が主催するキャンプ、指導者講習会、イベントなどで幅広く活用された。

配布件数：35 都道府県キャンプ協会 5種 78 張



宮城県キャンプ協会に配備したテント

よりよいキャンプを実現する指導者養成の事業（公益目的事業2）

よりよいキャンプを実現する指導者養成の事業は、キャンプの楽しさを伝え、その有用性を引き出し、キャンプに参加する人々の心身の成長をファシリテートする指導者を養成する大切な事業です。2020年度は、コロナ禍により、講習会が実施できない状況に陥りましたが、「キャンプ指導者の養成を止めない！」ことを目標に、様々な工夫とチャレンジがなされ、結果的に、指導者養成事業の新たな可能性が実感できた年となりました。

1. 公認指導者養成

(1) キャンプインストラクター養成講習会

キャンプインストラクター養成講習会は、新型コロナウイルスの感染拡大をうけて、急遽、指導者養成委員会が策定した「コロナ禍における指導者養成の指針」に基づき、感染対策を講じながら、集合講習、日帰り講習、ハイブリット講習（集合講習＋オンライン講習）など、新たな形の講習を全国各地で実施した。

講習会（課程認定団体A・B・C団体による実施）

課程認定団体	養成数
都道府県キャンプ協会(A団体)による養成数	480人
課程認定校・社会教育団体等(B・C団体)による養成数	1,070人
合計	1,550人

※養成目標数 1,800人、達成率 86.1%

※2019年度養成数 1,803人比、253人減少

(2) キャンプディレクター2級養成講習会

キャンプディレクター2級養成講習会においても、指導者養成委員会が策定した「コロナ禍における指導者養成の指針」に基づき、感染対策を講じながら、全国各地で講習会を継続実施した。

【A団体による実施】

主催県	日程	会場	養成数
千葉県	9月19日(土)～21日(月祝)	千葉市誉田キャンプ場	2人
東京都	11月9日(月)、10日(火)、 12日(木)、13日(金)	オンライン講習	13人
	11月16日(月)～17日(火) または 11月28日(土)～29日(日)	ヒゲッチキャンプ場	
大阪府	2021年 2月12日(金)～14日(日)	吉野宮滝野外学校	2人
福岡県	2021年 3月13日(土)～14日(日)	国立夜須高原青少年自然の家	13人
		合計	30人

※2019年度 8会場：53人

【B・C団体による実施】

団体名	養成数
国際自然環境アウトドア専門学校（B団体）	6人
大阪体育大学（B団体）	1人
北翔大学（B団体）	5人
国際武道大学（B団体）	1人
合計	13人

※2019年度 6団体：22人

※養成目標数（A・B・C団体）70人、達成率61.4%

※2019年度全体養成数（A・B・C団体）75人比、32人減少

(3) キャンプディレクター1級養成講習会（日本キャンプ協会主催）

キャンプディレクター1級養成講習会は、新型コロナウイルスの感染をふまえて、集合形式の開催を見送り、初のオンライン講習会として開催した。初めての試みで心配する部分もあったが、全国から多くの参加者があり、今年も新たに30名のキャンプディレクター1級指導者を認定することができた。

日程	受講数	会場
11月21日(土)～23日(月祝)	17人	オンデマンド講習+オンライン講習
12月11日(金)～13日(日)	15人	オンデマンド講習+オンライン講習

※2019年度 2会場：31人

(4) キャンプディレクター1級検定会（日本キャンプ協会による実施）

日程	受講数	会場
1月23日(土)～24日(日)	18人	オンライン検定
2月13日(土)～14日(日)	12人	オンライン検定

※養成目標数30人、達成率100%

※2019年度 2会場：30人、対前年比、30人同数



キャンプディレクター1級オンライン講習会

2. キャンプ指導者の審査・認定

【資格申請者の審査・認定】

資格名 認定日	キャンプ インストラクター	キャンプ ディレクター2級	キャンプ ディレクター1級
4月7日		1	5
5月1日		1	1
10月8日		2	-
10月30日		5	-
12月17日		9	-
12月22日		4	-
2月16日		-	18
3月2日		4	-
3月11日		5	12
3月24日		1	-
合計(人)	1,550	32	36
目標人数	1,800	70	30

※2019年度 D1 : 41人 D2 : 135人

【指導者資格（インストラクター・ディレクター）の更新】

キャンプ インストラクター(CI)	キャンプ ディレクター2級(D2)	キャンプ ディレクター1級(D1)	合計(人)
3,735	1,356	1,010	6,101

※指導者資格更新目標数 6,500人比、達成率 93.8%

※2019年度 CI : 3,774人 D2 : 1,441人 D1 : 1,015人 合計 6,230人

※2019年度更新数 6,230人比、129人減少

課程認定団体数

(単位：団体)

A団体	B団体	C団体
47	107	22

※2019年度 A団体 : 47団体 B団体 : 107団体 C団体 : 20団体

新規課程認定団体の審査・認定

No	審査会日程	課程認定団体名
1	4月7日	B団体 育英大学(群馬県)
2	7月1日	B団体 大原学園 大原医療保育福祉専門学校 千葉校(千葉県)
3	8月13日	B団体 東邦大学 看護学部(東京都)
4	9月29日	B団体 立教大学(埼玉県)
5	11月2日	C団体 NPO法人ハチ高原・氷ノ山自然体験村(兵庫県)
6	2月24日	C団体 NPO法人メタセコイアの森の仲間たち(岐阜県)
7	2月26日	B団体 日本女子体育大学(東京都)
8	3月24日	B団体 広島国際大学(広島県)

※新規課程認定団体目標数 10団体、達成率 80.0%

※2019年度新規課程認定団体 4団体、前年比、4団体増加

賛助会員（団体）

No	入会日	団体名
1	6月1日	株式会社 noasobi
2	1月15日	株式会社 K&K クリエーションズ
3	1月27日	株式会社 タナクロ

※新規賛助会員目標数2団体、達成率150.0%

※2019年度新規賛助会員1団体、前年比、2団体増加

3. 指導者養成のためのテキスト発行

キャンプインストラクター養成用のテキスト「キャンプ指導者入門」、キャンプディレクター養成用のテキスト『キャンプディレクター必携』の発行を継続して行った。また、「キャンプ指導者入門」は前年度に続き、教員免許状更新講習18時間講習（オンデマンド講習）のテキストとしても活用した。

4. 課程認定団体向け研修会

4月に、1回目の緊急事態宣言が全国に発出されたため、5月にオリンピックセンターで開催予定だった、2020年度の課程認定団体研修会は中止となった。

日 程：2020年5月23日（土） 中止

会 場：国立オリンピック記念青少年総合センター（東京都渋谷区）

5. 都道府県キャンプ協会指導者研修会

都道府県キャンプ協会指導者研修会は、今年度より年1回の開催に変更になっていたが、新型コロナウイルスの感染拡大により、急遽予定を変更し、初めてのオンライン開催となった。「コロナ禍のキャンプ事業の可能性」をテーマに、キャンプや指導者養成の事例報告、CAMPING AWARD 2020 贈呈式、今後の協会運営、ブロック会議など2日間に渡って実施した。

日 程：2020年10月24日（土）・25日（日）

会 場：オンライン研修

参加者：1日目64人、2日目70人



都道府県キャンプ協会指導者研修会

6. 課程認定団体の増強への取り組み

会員増強を強化するための課程認定団体の募集活動は、新型コロナウイルスの感染拡大の影響により、十分な活動を行うことができず、目標数を達成することはできなかった。

7. 指導者養成制度改訂に向けた検討

指導者養成制度については、コロナ禍もあり、養成方法、登録制度など、時代に相応しいカタチに、一部改訂する取り組みが始まっている。また、指導者養成のすそ野を広げるために、キャンプに関心のある層を対象にした「キャンプ入門講座」の開設について検討を行った。

8. 教員免許状更新講習の実施

2年目となる文部科学省認定の教員免許状更新講習は、都道府県協会の協力により、全国 13 会場で開催する予定だったが、新型コロナウイルスの感染拡大により、対面講習ができなくなったため、急遽、通信講習（オンデマンド）に変更して実施することができた。タスクチームが編成されて、理事、運営委員、指導者会員の協力のおかげで、講習を中止することなく、18 時間講習と 6 時間講習の講義動画を配信することができた。

開催地	会 場	開催日	受講者数
北海道	札幌市滝野自然学園	8/16(日)～18(火)	中止
宮城県	宮城県松島自然の家	8/11(火)	中止
山形県	山形県朝日少年自然の家	9/6 (日)	中止
茨城県	茨城県立里美野外活動センター	7/21(火)～23(木)	中止
埼玉県	埼玉県立長瀬げんきプラザ	7/30(木)～8/1(土)	中止
東京都	国立オリンピック記念青少年総合センター	8/5(水)～7(金)	中止
山梨県	山梨県立愛宕山少年自然の家	8/10(月)	中止
静岡県	静岡県立朝霧野外活動センター	8/3(月)～5(水)	中止
愛知県	愛知県美浜少年自然の家	8/10(月)～12(水)	中止
奈良県	吉野宮滝野外学校	7/24(金)～26(日)	中止
香川県	丸亀市栗熊コミュニティセンター	8/22(土)	中止
福岡県	福岡県立少年自然の家「玄海の家」	7/21(火)～23(木)	中止
鹿児島県	かごしま県民交流センター	8/6(木)	中止
全国	オンデマンド講習 18 時間講習	7/27(月)～9/30日(水)	35
全国	オンデマンド講習 6 時間講習	7/27(月)～9/30日(水)	11
		合 計	46 人

※2019 年度 7 会場 8 回実施 受講者数 52 人

キャンプの質の向上につながる研修及び調査研究の事業（公益目的事業3）

キャンプの質の向上につながる研修及び調査研究の事業は、国内外で行われているキャンプの実践や研究についての調査、情報の収集、整理を行い、実践者、研究者に關係資料の提供を行いました。また、新型コロナウイルスの感染拡大に対しては、感染対策の情報収集と発信、情報交換の機会を積極的に提供し、新しいキャンプの可能性を探ることができました。

1. 第24回日本キャンプミーティングの開催

2020年度の日本キャンプミーティングは、当初、11月にオリンピックセンターで開催予定だったが、新型コロナウイルスの感染拡大により、急遽、オンライン形式に変更をして、6月から4回シリーズで、コロナ禍におけるキャンプ活動の可能性について、実践例の発表や意見交換を行う機会として開催した。オンライン開催にしたことにより、国内外から様々な分野で実践、研究しているキャンプ関係者が集い、コロナ禍の今だからこそ、これからのキャンプのあり方や、キャンプだからこそできることについて、意見交換や情報共有を行うことができた。

日 程：2020年6月6日（土）、7月4日（土）、9月30日（水）、11月14日（土）

会 場：オンラインミーティング

参加者：延べ350人（実行委員・発表者含）

第4回オンラインミーティング ～これからキャンプ、こうしませんか～

【スペシャルスピーチ】～世界のwithコロナ×キャンプ～

John Jorgenson 氏（国際キャンプ連盟 元会長）
Jeff Bradshaw 氏（カナダキャンプ協会 元会長）
Ruth Feng 氏（Jingle International Education(青果国際教育) CEO)
Tom Rosenberg 氏（アメリカキャンプ協会 会長兼 CEO)

【研究発表】3題

新型コロナウイルス緊急事態宣言下における子どもの余暇の過ごし方について
長期自然体験活動が小学生の学校における適応感に及ぼす影響 S小学校セカンドスクールを事例として
民間の野外教育団体の組織キャンプにおけるプロダクト構造の分析

【実践報告】5題

<ONLINE×CAMP 空想キャンプ場>の取り組みと今後の可能性について
コロナ禍でも四季冒険
ろう・難聴児のためのオンラインキャンププログラムの試み
デフ・アドベンチャー・キャンプ・オンライン 2020
バーチャルキャンプをやってみよう！
夏の自然体験活動・キャンプ事業実態調査報告

【ワークショップ発表】 5題

キャンプ、自然体験の魅力を伝える 動画の制作から
コロナ禍での小学生冒険プログラムの現場から
石垣島のフィールドからコロナ禍でのプログラムの紹介
若手ワークショップ 「オンラインOB訪問」
オンラインとキャンプをつなげる、農業体験の現場から



第24回日本キャンプミーティング
抄録集



John Jorgenson 氏 (国際キャンプ連盟 元会長)

2. 定期刊行物『キャンプ研究』

会員の研究や活動発表におけるひとつの機会として、また、キャンプ関係者への情報提供を目的として、『キャンプ研究』第24巻を発行した。キャンプディレクター資格保有者に冊子を配布するとともに、PDF版をWebサイトで公開し、広く一般にも読まれるようにした。

研究論文

大正時代から昭和時代戦前期までの社会事業における組織キャンプ(その1) —雑誌『東京府慈善協會報』より『社会福利』に至るまでに掲載された記事にみる キャンプを表わす用語— (中島豊)
野外活動において利便性が高いヤマビル忌避剤の検討 (西海太介)
青少年教育施設における危険度の高い活動・生活行動の現況と安全対策に関する一考察 (青木康太郎・小林祥之)

実践報告

自立と社会性を育む幼児キャンプの実践 (国馬善郎)
コロナ禍における大学野外活動実習の実践報告 —大阪体育大学の取り組み— (徳田真彦・伊原久美子・富山浩三)
コロナ禍における大学教育での「野外活動」の取り組みに関する一考察 (北村優弥・横山誠)

特別収録

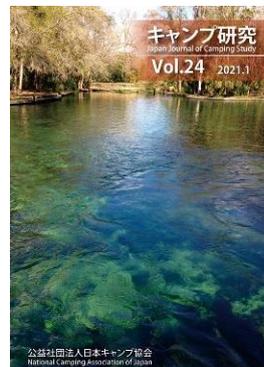
2020 年度夏季のコロナ禍における自然体験活動・キャンプ事業に関する実態調査
ー第 24 回日本キャンプミーティングの取り組みー
(高橋宏斗・佐藤冬果・渡邊直史・中丸信吾・熊澤桂子・野口和行)

発行日：2021 年 1 月 15 日(金)

発行部数：3,000 部

キャンプディレクター 1 級及び 2 級指導者へ郵送

(別途 PDF 版を Web サイトで公開)



『キャンプ研究』第 24 巻

3. 安全に関する啓発活動

キャンプを安全に行うための情報(ハンドブック、小冊子)提供を、キャンプインフォメーションセンターへの問い合わせ、キャンプ安全の日に、PDF 版の Web サイト公開や送付などで継続して行った。特に今年度は、新型コロナウイルスの感染症予防対策についての最新情報、調査結果などを、日本キャンプミーティングや Web サイト専用ページで紹介した。

また、キャンプの安全についての理解は、キャンプ人口が増える中、ますますその必要性は高まっている。感染症の対策も含め、安全なキャンプを実施するために、新たに安全対策委員会を立ち上げた。

法人事務

公益認定後、2回目となる内閣府の立入検査が10月2日に行われ、適正な協会運営がなされていることが確認されました。一部、法人規則や会計処理の取扱いなど、助言を受けた内容については、総務委員会で精査し、改善に努めました。また、育児・介護休業規則とハラスメントの防止に関する規程を整備するにあたり、就業規則の改定を行いました。

なお、緊急事態宣言が発出されている期間は、職員自身の感染予防、時差出勤と時短勤務による感染対策を行い、事務局業務が停滞しないように努めるとともに、コロナ禍による収入の減少を見込み、支出の抑制を優先しながら、静岡県立朝霧野外活動センターと日本協会の健全な財務管理を行いました。

1. 諸会議の開催

会議名	回数	日 程		
定時社員総会	1	6月6日(書面決議)		
理事会	3	5月17日 / 6月6日(臨時) / 2021年3月6日		
監査	2	5月15日 / 10月2日(内閣府立入検査)		
三役会	9	8月13日・9月12日・10月22日・11月25日・12月18日・ 1月25日・2月19日・3月19日・3月27日		
執行理事会	11	4月8日・5月13日・7月9日・8月19日・9月28日・ 10月30日・11月30日・12月22日・1月28日・2月21日・ 3月24日		
合同ミーティング	1	9月9日		
ブロック会議	7	全ブロック	10月25日	オンライン
		関東ブロック	12月6日	オンライン
		近畿ブロック	12月9日	オンライン
		中部・北陸ブロック	12月19日	オンライン
		北海道・東北ブロック	1月31日	オンライン
		中国・四国ブロック	2月13日	オンライン
		九州・沖縄ブロック	2月27日	オンライン

※ブロック会議は10月の全ブロック会議と併せ、各2回ずつ開催

運営委員会等

会議名	回数	日 程		
CAMPING 編集委員会	3	5月27日・12月7日・2月1日		
指導者養成委員会	3	8月12日・9月23日・3月19日		
ビジョン推進委員会	2	10月12日・1月6日		
地域連携委員会	2	9月9日(合同ミーティング)・10月14日		
総務委員会	3	7月2日・11月18日・2月23日		
キャンプミーティング実行委員会	11	4月13日・4月17日・4月27日・5月13日・ 6月5日・6月11日・7月2日・9月21日・ 10月15日・11月4日・3月29日		

朝霧運営委員会	1	12月22日
安全対策委員会	3	11月9日・1月15日・3月23日
設立55周年作業部会	1	1月27日
キャンプ白書編集委員会	2	3月9日・3月23日

その他の会議、研修等

会議名	回数	日程
青少年教育5団体連絡協議会	4	4月30日・5月18日・5月25日・6月1日
中央青少年団体連絡協議会世話人会	5	6月26日・7月2日・7月22日・8月6日・8月20日
文部科学省と中青連世話人会との意見交換会	2	8月24日・1月28日
事務局会議	6	10月22日・11月26日・12月24日・1月26日 2月25日・3月25日

静岡県立朝霧野外活動センター関係

会議名	回数	日程
県立青年の家等所長会	4	5月22日・9月11日・12月4日・3月4日
静岡県青少年教育施設協議会 所長会	4	4月は書面による会議・7月17日・10月16日・ 2月12日
主席会	4	5月26日・7月16日・11月25日・3月3日
県庁合同会議(コロナ対策)	2	4月2日・5月19日
安全対策委員会	3	6月18日・7月28日・11月16日
外部評価委員会	—	コロナ禍のため、会議は実施せず、5月収録(所長出席)の 録画資料を委員会で検討して判断 2019年度外部評価委員会評価伝達式 6月24日
全国青少年教育施設所長会議	—	コロナ禍のため、出席せず
東海北陸地区青少年 教育施設協議会研修会	—	コロナ禍のため、実施なし
静青協職員研修会	—	コロナ禍のため、実施なし
社会教育実践研修	—	コロナ禍のため、実施なし
地域懇談会	2	6月5日(臨時)、11月13日
食堂定期協議会(打合せ)	12	4月15日・5月15日・7月21日・29日・9月1日・14 日・10月8日・12月11日・25日・1月14日・27日・ 3月11日(新型コロナウイルス感染症への対応等)
「体験の風をおこそう」推進 事業実行委員会	1	8月31日 2回目はコロナ禍のため実施なし

2. 都道府県キャンプ協会との連携(公1-6・7・8、公2-1・5・8)

地域社会におけるキャンプの普及と振興の要である都道府県キャンプ協会の協会運営が、さらに活性化がはかれるように事業活動の支援を行った。また、活動が停滞している協会に対し、リモートによる連絡協議会を行い、活動再開のための助言を行った。

- ・キャンプ指導者養成講習会の支援と協働
- ・会報同封サービスの提供
- ・デジタル化推進への協力
- ・ブロック会議の開催と支援
- ・文部科学省委託事業のとりまとめと作業支援
- ・「キャンプ安全の日」全国一斉キャンペーンの展開
- ・キャンプ用品・用具の配備
- ・都道府県協会との連絡協議会の開催
- ・都道府県キャンプ協会指導者研修会の開催

3. Monthly Report

本協会の役員、運営委員、都道府県協会事務局、課程認定団体、他団体関係者などを対象に、日本キャンプ協会の最新情報や動静を共有するための Monthly Report を月 1 回(計 11 回)発行した。

4. 日常法人業務

限られた職員数で円滑に業務を進めるために、作業効率のよくない業務の見直しを徹底して行い、リモート会議システムの導入や事務手続きのデジタル化を推進した。また、協会の財政状況を見据え、消費税の外税方式への切り替えを行うとともに、行事や各種手当の見直しなど支出の抑制に努めた。なお、寄付金制度の導入については、十分に検討するまでに至らず、課題を残す結果となった。

＜法人事務主な業務＞

会員管理／会費収納／事業方針・計画・予算の管理／日常経理事務／助成金事務／人事管理／諸規定の整備／内閣府への各種報告／他団体との渉外窓口

5. 各種団体等への協力・共催・後援

団体名	事業名	種別
愛媛県キャンプ協会	夏休み最高の思い出をつくろう！サマーキャンプ	後援
大阪府キャンプ協会	野外活動のためのリスクマネジメントセミナー in 関西	後援
Spring Neige	キャンプインストラクター養成講習会	後援
岩手県キャンプ協会	キャンプインストラクター養成講習会	後援
公益財団法人 修養団	S Y D ボランティア奨励賞 (第 16 回)	後援
公益財団法人 修養団	青年ボランティア・アクション in フィリピン	後援
公益財団法人 修養団	幸せの種まきキャンペーン (出前講座／課外授業)	後援
公益財団法人 修養団	子ども自然体験キャンプ《全国 9 会場》	後援
公益財団法人 修養団	被災地訪問青少年ふれあいボランティア	後援
公益財団法人 修養団	全国青年ボランティア・アクション in 福島	後援
公益財団法人 修養団	全国青年アカデミーキャンプ	後援

※協力・共催はなし

CAMPING AWARD 2020 受賞者（9人、1団体）

西村 幸雄 氏

岩手県キャンプ協会 副会長

岩手県キャンプ協会発足当初（平成5年）より、会員及び役員として、特に沿岸部でのキャンプ普及に尽力してきました。平成23年の東日本大震災津波の被災から10年、自らも被災しながら復興に向けてたくましく、また、粘り強く努力し続けてこられました。平成18年12月にNPO法人「夢ネット大船渡」を立ち上げ、地域の復興に取り組むと共に、笑いと潤いのある生活を呼びかけ活躍されてきました。本人曰く、そこで活きたのがキャンプで培ってきた知識や技能だったそうです。また、被災直後の当協会主催の研修会において、「被災状況と被災地の現状」というテーマで講演。懸命に復興に携わる人々に支援の手を！と呼びかけました。このことが、岩手におけるアウトドアチャレンジ岩手県実行委員会の結成と、被災地の子どもを内陸部に招待して実施するキャンプ（グリーンケアキャンプ）に繋がりました。その功績が認められ、昨年実行委員会は、内閣府のチャイルド・ユースサポート章を受章されました。

（推薦団体：岩手県キャンプ協会）

糸屋 幸 氏

秋田県キャンプ協会 副会長

キャンピングネーム「コウさん」こと糸屋幸氏は、秋田県キャンプ協会設立当時よりのメンバーであり、理事として長年に渡って当協会の運営や事業実施に力を発揮され、2016年からは副会長として当協会の運営並びにキャンプの普及発展に尽力されています。氏のキャンプ活動の視野は広く、北アルプスやキリマンジャロ山、キナバル山等の登山活動やボーイスカウト指導者として日本ジャンボリーや世界ジャンボリー、アメリカの日米交換計画に小・中・高校生を引率して参加など、この活動範囲は日本に留まりません。海外での過酷なキャンプや生死を分けるような体験エピソードは数知れず。そんなことから温和な風貌にもかかわらず、会員からは親しみを込めて「デンジャラス コウ」とも呼ばれています。また、日本赤十字社の指導員でもあり、インストラクター養成委員会やファミリーキャンプでの救急法や幼児安全法指導は、氏の幅広く深い知見により実践的でわかりやすいと定評があります。当協会の重鎮としてますますの活躍が期待される存在です。

（推薦団体：秋田県キャンプ協会）

鈴木 秀伸 氏

山形県キャンプ協会 理事

鈴木秀伸氏は平成9年にインストラクターを取得、その後長きにわたり協会のために尽力いただきました。鈴木氏は植物の生態に詳しく、本会の中心的な行事であるファミリーキャンプにおいて自然散策の講師として、山野草などを幼児にもわかりやすく解説したり、野の花遊びで興味を持たせたりして楽しく説明してくれます。このほか、森の幼稚園の講師や森林インストラクターとしての活動もなされており、新聞でその活躍の様子がしばしば取り上げられることもあります。

また、インストラクター養成講習会でも講師を務め、パワーポイントで資料作成し、わかりやすい講義を行っています。誰にも優しく接し、酒をこよなく愛する人柄はキャンプネーム「のぶさん」の愛称とともに幅広い世代から人気で慕われています。

(推薦団体：山形県キャンプ協会)

渡邊 忠 氏

茨城県キャンプ協会 名誉会長

平成10年の茨城県キャンプ協会発足にあたり、副会長として県担当課や野外活動をはじめとする各種団体との調整に奔走されました。平成20年には会長に就任、翌年からは県の野外活動施設の指定管理者として大規模施設の管理・運営にあたるという、全国のモデルとなる事業をスタートさせました。渡邊氏は専門学校校長として、保育・教育・スポーツの養成カリキュラムにキャンプスキルを導入されました。同時に各園にある附属教育施設の子どもたちや親子の自然体験の環境作りに尽力されたことで、年間数多くのキッズキャンプやファミリーキャンプを展開する事業型協会へと躍進する多大な功績を残されました。現在は名誉会長として後進を育てるとともに、ご自身でも山登りやアウトドアを楽しまれ、そのご経験を会はもとより地域の活動でも大いに貢献されています。

(推薦団体：茨城県キャンプ協会)

宇山 雅之 氏

栃木県キャンプ協会 元理事

栃木県キャンプ協会設立当初から、様々な事業に意欲的に参加し、協会の発展に尽力されました。平成20年度・21年度には理事として協会運営にも参画しています。特に、中心的事業である「自然生活体験キャンプ」においては、平成13年から通算16年(回)、主に本部担当スタッフとして参加し、豊かな経験に裏打ちされた幅広い知識や確実な技術により、事業を成功に導いてきました。また、指導者養成事業「キャンプアカデミー」においても、講習を支えるバックアップスタッフとして多くのキャンプ指導者の育成に貢献されてきました。その誠実な人柄は協会事業には欠くことのできない貴重な人材となっています。更に、幼少時からボーイスカウト活動を続け、最近では、那須塩原市西那須野地区の団の復活にも力を注いでいます。

(推薦団体：栃木県キャンプ協会)

中野 修美 氏

NPO法人群馬県キャンプ協会 監事・指導者養成委員

キャンプ協会との出会いは子供たちの保育所のキャンプが始まりで、子供たちの成長への手助けにと自ら野外活動に飛び込み、長年新潟県新潟市で協会活動を行っていましたが、職場の異動により新潟大学・国立妙高少年自然の家(当時)・国立能登青年の家(当時)・三重大学・山形大学と歴任するうちに知り合った群馬県キャンプ協会に所属替えをし、今日に至ります。住所は現在、新潟市ですが、群馬県キャンプ協会の協会員として監事及び指導者養成委員として、事務局を補佐する一方、協会の若手に対し野外活動技術や、自然体験と触れ合う技法、子供との触れ合い技能や生活の知恵を伝授しています。特に自然現象による天候異変や天気予報判断については格別のものがあります。また、野外におけるクッキングに関しては絶対的な力を発揮し、各方面から指導を依頼されています。リーダーシップに長け、

人柄もよく、若き会員達に自然の素晴らしさを教えるとともに、協会の目的でもある楽しく成長する野外活動を推し進めるとともに、次代の指導者養成に大きな力を注いでいます。本協会には無くてはならぬ存在であり、頼りがいのある重要な存在です。この機会に功績を会員一同からの感謝とともに表したいと思います。

(推薦団体：NPO 法人群馬県キャンプ協会)

瀧深 徹 氏

NPO 法人埼玉県キャンプ協会 理事

瀧深氏は小さい頃よりボーイスカウトに加盟し、幼少時代の遊びが当にキャンプそのもので過ごしてきました。大学、大学院を通して野外教育を専門的に学び、その後は自身でアウトドア関連会社を起業し、まさに半世紀をキャンプと共に生きてきた人でもあります。

埼玉県キャンプ協会にあつては、長く広報活動に携わっていただき、キャンプ広報の紙媒体の重要な時代から、今日のネット時代へとスムーズな引き継ぎが可能であったのも瀧深氏の大きな貢献があります。氏の企画運営するプログラムは、継続性があり、リピーターも多いと言われています。学生時代を落研で過ごした柔和な性格と相手の心をしっかりとケアする豊かな話術も、今の時代のキャンプ活動に必須のものであり、埼玉県キャンプ協会も多くの行事で氏のお力を借りてきています。

(推薦団体：NPO 法人埼玉県キャンプ協会)

公益財団法人大阪YMCA

大阪YMCAは、1920年に日本初の組織キャンプ（長期少年キャンプ）を六甲山麓で実施し、以降日本の組織キャンプ・教育キャンプを、青少年団体及びボランティア団体として、一世紀に亘り、けん引されてきました。1882年の創立以来、青少年を主な対象とした全人教育を目指し、キリスト教精神を基盤にキャンプ・野外活動を今日まで続けられ、多様な人材を教育・医療・福祉・経済界等に輩出されてきました。また、発達障がい児や、障がい者のキャンプ、海外での津波リリーフとしての希望を見出すキャンプ、さらには大阪府内の諸団体と連携し、高齢者や認知症を患う方々を対象にキャンプを実施する等、幅広く先駆的に社会の課題に取り組んでこられました。毎年数々のキャンプ事業を展開し、1951年に六甲山YMCA、現六甲山YMCAグローバルラーニングセンター（兵庫県）を、1968年にYMCA阿南国際海洋センター（徳島県）を開設、今年、キャンプ100周年を迎えられました。

(推薦団体：大阪府キャンプ協会)

神崎 清一 氏

公益社団法人日本キャンプ協会 前副会長

神崎氏は、2004（平成16）年に専門委員として、指導者養成委員会で手腕を發揮され、2008（平成20）年には理事に就任し、その年から常務理事、その後専務理事を歴任し、協会の運営に関わり、特に総務委員として、協会の財務や職員の職務状況に気を配り、事務局員のサポートに尽力されてきました。2018年には副会長に就任し、星野会長を陰で支えてこられました。現在も顧問としての立場から協会をサポートされています。

また、京都府キャンプ協会では、長年にわたり副会長として、また事務局運営にも携わり、陰になり日向になり、会務全般をまとめ、今日の京都府キャンプ協会の礎を創られてこられました。2020年からは会長として、京都府の発展に寄与されています。

(推薦団体：公益社団法人日本キャンプ協会)

星野 敏男 氏

公益社団法人日本キャンプ協会 前会長

星野氏は、1987（昭和 62）年に専門委員に就任し、企画、国際、指導者養成委員などを歴任、1994（平成 6）年には理事に就任、その後、2000 年に常務理事に選任され、専務理事、副会長を歴任し、2014 年には会長に就任し、33 年にわたって日本キャンプ協会の要職を担い、協会の諸事業の基礎を築くと共に、キャンプの普及・発展、また後進の育成に大きな力を注いでこられました。会長として迎えた 2016（平成 28）年、設立 50 年を記念して行われた第 6 回アジア・オセアニア・キャンプ大会を成功させたことは記憶に新しいところです。また、日本における野外のパイオニアとして、日本の野外の団体を始め、文部科学省などの要職を歴任、中でも文部省（当時）が昭和 63 年に提唱した「自然生活へのチャレンジ推進事業」（フロンティア・アドベンチャー事業）において、静岡県でのフロンティア・アドベンチャーキャンプ（静岡県立朝霧野外活動センターで実施）のキャンプ長を 11 年間務められ、協会として、初の試みであった静岡県立野外活動センターの指定管理者への応募の際には、これまでの経験と見知を遺憾なく発揮し、2007（平成 19）年からの静岡県からの選定に大きく尽力されました。現在は協会の顧問として、さらにその手腕を発揮されています。

(推薦団体：公益社団法人日本キャンプ協会)



受賞者の皆様

公益社団法人日本キャンプ協会 2020・2021 年度 役員

(2021 年 3 月 31 日現在)

名誉会長	酒井 哲雄	元・頌栄保育学院 理事長
顧問	斉藤 保夫	元・城西大学 教授
顧問	富岡 幸生	元・(一財)日本健康開発財団 専任講師
顧問	野間口 英敏	元・東海大学 教授
顧問	長谷川 純三	(一社)日本オートキャンプ協会 名誉会長
顧問	野澤 巖	元・埼玉大学 教授
顧問	永吉 宏英	元・大阪体育大学 学長
顧問	石田 易司	元・桃山学院大学 副学長
顧問	吉田 大郎	元・(公社)日本キャンプ協会 事務局長
顧問	星野 敏男	元・(公社)日本キャンプ協会 会長
顧問	神崎 清一	元・(公社)日本キャンプ協会 副会長
代表理事 会長	平田 裕一	至学館大学 教授
業務執行理事 (4名)		
副会長	藤枝 隆	東京農業大学 農学部 事務部長
専務理事	今井 正裕	大阪府キャンプ協会 副会長 (近畿ブロック) / (一財)大阪府青少年活動財団 事業部長
常務理事	高見 彰	大阪国際大学 教授・兵庫県キャンプ協会 会長
常務理事	野口 和行	慶應義塾大学体育研究所 教授
理事	木村 公一	(公財)ボーイスカウト日本連盟 事務局長
理事	重住 恭子	(公社)ガールスカウト日本連盟 副会長
理事	鈴木 由美	女子美術大学他 非常勤講師
理事	高野 孝子	(NPO)エコプラス 代表理事
理事	田口 努	(公財)日本YMCA同盟 総主事
理事	田中 廣喜	NHK首都圏局メディア展開部 チーフプロデューサー
理事	中村 正雄	大東文化大学教授・埼玉県キャンプ協会常務理事
理事	針ヶ谷 雅子	明治大学等 兼任講師
理事	平野 吉直	信州大学 教授
理事	下川原 清貴	北海道キャンプ協会 事務局長 (北海道・東北ブロック)
理事	堀口 芳嗣	埼玉県キャンプ協会 副会長 (関東ブロック)
理事	鈴木 保宏	三重県キャンプ協会 会長 (中部・北陸ブロック)
理事	高田 和宜	山口県キャンプ協会 副理事長 (中・四国ブロック)
理事	大橋 光雄	福岡県キャンプ協会 名誉会長 (九州・沖縄ブロック)
理事	柳下 史織	(公財)東京YWCA 青少年育成事業部 統括責任者
		理事 以上 20 人
監事	井上 透	岐阜女子大学 教授
監事	小田原 一記	(公財)日本レクリエーション協会 専務理事・事務局長
監事	佐藤 初雄	(NPO)国際自然大学校 理事長
		監事 以上 3 人

公益社団法人日本キャンプ協会 2020・2021年度 運営委員

(2021年3月31日現在)

執行理事会

役 職	氏 名	役職・勤務先役職
会 長	平田 裕一	代表理事 / 至学館大学教授
副 会 長	藤枝 隆	業務執行理事、法人総務 / 東京農業大学農学部・事務部長
専務理事	今井 正裕	業務執行理事、公1担当理事 / 大阪府キャンプ協会副会長
常務理事	高見 彰	業務執行理事、公2担当理事 / 大阪国際大学教授
常務理事	野口 和行	業務執行理事、公3担当理事 / 慶應義塾大学教授
理 事	鈴木 由美	業務担当理事 / 女子美術大学非常勤講師
理 事	中村 正雄	業務担当理事 / 大東文化大学教授
総務委員	神谷 稔	総務委員 / 税理士法人T's 会計税理士

(公1) ビジョン推進委員会 (旧ビジョン2020推進委員会)

委員長	今井 正裕	業務執行理事、公1担当理事 / 大阪府キャンプ協会副会長
委 員	藤枝 隆	業務執行理事、法人総務 / 東京農業大学農学部・事務部長
委 員	高見 彰	業務執行理事、公2担当理事 / 大阪国際大学教授
委 員	田丸 良明	石川県キャンプ協会 事務局次長
委 員	引間 紀江	(独) 国立女性教育会館 専門職員
委 員	吉松 誠一郎	佐賀新聞社大阪支社 支社長

(公1) CAMPING 編集委員会

委員長	今井 正裕	業務執行理事、公1担当理事 / 大阪府キャンプ協会副会長
委 員	青木 康太朗	國學院大学 准教授
委 員	翠尾 由美	港区立麻布子ども中高生プラザ 副館長
委 員	山梨 雄一	(公財) 東京YMCA
委 員	山本 直輝	(公財) ハーモニイセンター 理事 事務局長補佐
委 員	吉松 梓	新潟医療福祉大学 講師

(公1) 朝霧野外活動センター運営委員会

委員長	星野 敏男	日本キャンプ協会顧問 / 明治大学教授
委 員	中村 正雄	業務担当理事 / 大東文化大学教授
委 員	井出 暢一	朝霧野外活動センター 所長
委 員	齋藤 祐幸	朝霧野外活動センター 副所長
委 員	櫻井 良樹	朝霧野外活動センター 事業課長
委 員	太田 正義	朝霧野外活動センター コーディネーター

(公2) 指導者養成委員会

委員長	鈴木 由美	業務担当理事 / 女子美術大学非常勤講師
委 員	遠藤 知里	常葉大学短期大学部准教授
委 員	富山 浩三	大阪体育大学教授
委 員	中村 正雄	業務担当理事 / 大東文化大学教授
委 員	吉田 理史	(一社) SATOYAMAそだち 代表

(公2) 教員免許状更新講習タスクチーム

委員長	野口 和行	業務執行理事、公3担当理事 / 慶應義塾大学教授
委員	今井 正裕	業務執行理事、公1担当理事 / 大阪府キャンプ協会副会長
委員	高見 彰	業務執行理事、公2担当理事 / 大阪国際大学教授
委員	鈴木 由美	業務担当理事 / 女子美術大学非常勤講師
委員	中村 正雄	業務担当理事 / 大東文化大学教授
委員	青木 康太朗	國學院大學准教授

(公3) 日本キャンプミーティング実行委員会

委員長	野口 和行	業務執行理事、公3担当理事 / 慶應義塾大学教授
委員	熊澤 桂子	東京教育専門学校専任講師
委員	中丸 信吾	日本女子体育大学講師
委員	渡邊 直史	プラムネット(株)アウトドア共育事業部総括リーダー
委員	佐藤 冬果	筑波大学大学院生
委員	石川 大晃	アクトインディ(株)新規事業開発部

(公3) 安全対策委員会

委員長	中村 正雄	業務担当理事 / 大東文化大学教授
委員	甲斐 知彦	関西学院大学教授
委員	寺田 達也	ひの社会教育センター地域コミュニティ部次長
委員	鈴木 千琴	関西医科大学大学院博士後期課程学生
委員	稲垣 尊仁	ウィルダネスリスクマネジメントジャパン理事

(公3) キャンプ白書編集委員会

委員長	青木 康太朗	國學院大學准教授
委員	佐藤 冬果	筑波大学大学院生
委員	中丸 信吾	日本女子体育大学講師
委員	福富 優	至学館大学短期大学部助教
委員	吉松 梓	新潟医療福祉大学講師

(法人総務) 設立55周年作業部会

委員長	野口 和行	執行理事・常務理事
委員	藤枝 隆	執行理事・副会長・地域連携委員長
委員	今井 正裕	執行理事・専務理事・ビジョン推進委員長
委員	中村 正雄	理事・安全対策委員長
委員	向島 克明	朝霧野外活動センター職員・地域連携委員

(法人総務) 総務委員会

委員長	藤枝 隆	業務執行理事、法人総務 / 東京農業大学農学部・事務部長
委員	神崎 清一	日本キャンプ協会顧問
委員	神谷 稔	日本キャンプ協会運営委員

(法人総務) 地域連携委員会

委員長	藤枝 隆	日本キャンプ協会副会長
委員	佐東 治	(北海道・東北ブロック) 山形県キャンプ協会副会長
委員	高橋 淳	(関東ブロック) 栃木県キャンプ協会理事長
委員	向島 克明	(中部・北陸ブロック) 静岡県キャンプ協会理事
委員	蓬田 高正	(近畿ブロック) 奈良県キャンプ協会常務理事
委員	廣見 美佐	(中国・四国ブロック) 高知県キャンプ協会事務局
委員	築山 泰典	(九州ブロック) 福岡県キャンプ協会

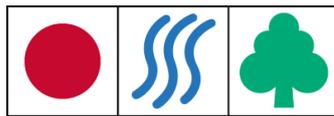
日本キャンプ協会事務局職員

事務局長	依田 智義	(全体統括)
事務局次長	秋山 千草	(法人事務)
職員	松橋 由起	(CAMPING・広報・ビジョン推進事業)
職員	高橋 宏斗	(指導者養成・キャンプミーティング)
パートタイマー	横浜 智美	(会員管理)

静岡県立朝霧野外活動センター職員

所 長	井 出 暢 一	副 所 長	齋 藤 祐 幸
コーディネーター	太 田 正 義	事 業 課 長	櫻 井 良 樹
指 導 職	保 科 哲 也	指 導 職	向 島 克 明
指 導 職	小 西 岳 勝	指 導 職	立 林 雅 貴
指 導 職	北 條 友 加 里	指 導 職	西 原 健 太
アルバイト	杉 山 奈 都 子	ア ル バ イ ト	大 崎 健 太
アルバイト	笠 井 久 美 子	ア ル バ イ ト	小 川 真 由 子

(2021年3月31日現在)



NCAJ

National Camping Association of Japan

〒151-0052 東京都渋谷区代々木神園町3-1
国立オリンピック記念青少年総合センター内
TEL:03-3469-0217 FAX:03-3469-0504
Email:ncaj@camping.or.jp